

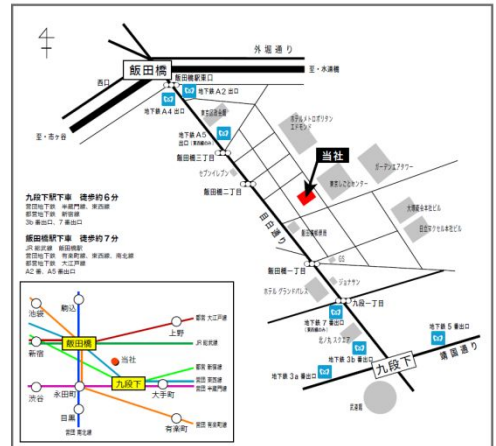
Project-IT匠の会では、独自のノウハウを集結し、公開研修を実施することになりました。奮ってご参加をお願いします。

| 人財育成のプログラム領域 | |
|--|---|
| 人財育成の基盤整備 | 経営の見える化（基盤強化） |
| <p>経営資源としての『人材』が『人財』と認識される組織の基盤を構築します</p> <p>問題の発見と解決</p> <p>①仮説立案: 事実やデータに基づく科学的思考(左脳)で真の要因と現象との因果関係の仮説を立てる ②解決策立案: 仮説を基に右脳を最大限に活性化させ創造的な問題解決の対策を立案する ③仮説検証: 対策案を実施し、評価し、仮説や対策が正しかったかどうかの検証を行う。またこのプロセスが組織内で継続するPDCAサイクルとして確立する</p> <p>コミュニケーション</p> <p>個々の価値観の相違を認識し互いのコミュニケーションを組織内に確立し、能力を最大限に発揮する組織基盤を構築します。さらにES(従業員満足度)とCS(顧客満足度)が向上し、組織の目標が達成される組織風土を醸成します</p> | <p>組織を取り巻く内外の環境変化を検知する感性と、アクションにつながる科学的思考と創造力を磨き、組織活動を「見える化」する仕組みを構築します</p> <p>業務改善 管理能力向上 プロジェクト管理 営業力強化</p> <p>IT化推進のプロセス</p> <p>『情報』を新たな経営資源として有効に活用するため、顧客ニーズを正確に理解し、ユーザーのITリテラシーを向上させ、IT化の正しい導入プロセスを確立します</p> <p>業務改善 → IT化計画 → RFP作成 → 構築力</p> |

Project-IT匠の会が考える人財育成プログラム領域より今回の公開研修では、通常1日～2日のコースを半日に圧縮し、4コースを実施します。

- 4月24日（金）：問題解決力強化研修
 - 5月14日（木）：提案力強化研修（RFPの読み方）
 - 5月29日（金）：見えるプロジェクト管理研修
 - 6月12日（金）：業務知識と業務システム研修
- * 講座詳細は裏面をご参照ください。

- 費用（各講座同一料金）
 - ￥5,250/1名
- 時間
 - 4時間
 - [13:00～17:00]
- 会場
 - 株式会社フォルティナ・研修ルーム
 - 右図参照



申込・お問い合わせ：今村 (imamu@xd5.so-net.ne.jp) 090-1068-1079

コース名：問題解決力強化

研修概要:様々な形で表面化する自社内や顧客企業の問題や課題に関して、
気付き感度の向上、事実を科学的に分析し、真因を突き止め、
その解決策を創造的に産み出す問題解決のプロセスを学ぶ。

研修内容: 1. 問題・課題への気付き感度 2. 科学的思考とツールの活用:QC7つ道具
3. 科学的思考による現状把握と要因分析 4. 要因分析と仮説・検証プロセス

コース名：提案力強化（RFPの読み方）

研修概要:ユーザから提示されたRFPを解読し、顧客の課題解決に直結する
最適な提案ができる力を養成する。

自社の強みを打ち出し、提案内容の 差別化を図り、
採用されるための提案書作成の実習を通して習得する

研修内容: 1. RFPの解読方法 2. 疑問点を確認する方法 3. RFPに書かれていないこと
4. 背景にある経営課題の認識 5. ステークホルダの確認 6. 提案書に記載すべき項目
7. 抜け漏れのない提案書の書き方

コース名：見えるプロジェクト管理

研修概要:PMBOKに沿った近代プロジェクト管理のプロセスとツールと技法について学び、
プロジェクトを成功に導く確率を高める。
特に計画プロセスと教訓の共有を重要な組織の財産形成にし、
リスクや仕様変更など計画がブレる要素をどのようにルール化しコントロールしてゆくかを学ぶ。

研修内容: 1. PMBOKとは 2. プロジェクト計画書の作成 3. WBSの構築 4. 見積り技術
5. KGIとKPIの適切な設定 6. 見える化と進捗管理、変更管理、リスク管理
7. ステークホルダーとの適切なコミュニケーション
8. 人材育成と教訓の共有 9. EVMによる進捗管理

コース名：業務知識と業務システム

研修概要:SEは顧客の現状や課題を把握するために必要な業務知識を習得する。
特に製造業と流通業および組織共通の人事・経理・総務に焦点を当て、
業務フローと対比しながら、在庫管理や販売管理などの単体の業務アプリケーションからERP、
SCM、CRMまでの統合業務システムの概要を学ぶ。
システムと業務の流れと系統的に理解していれば、お客様の課題を理解する上で、
お客様とのコミュニケーションギャップや誤解は少なくなる。
また、IT化の計画立案時に、システム構築・改築、パッケージソフトの選択・連携・統合に
関して適切な提案が出来るスキル獲得を目指す。